「絆の作り手育成プログラム研究指定校」事業報告書（３年次）

１　学校名等

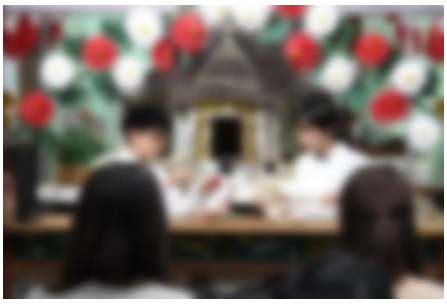
学　校　名	亀岡市立薭田野小学校							校長名	貝阿弥　俊也
所　在　地	〒６１７－０８５２　亀岡市薭田野町佐伯源ノ坊１８ 電話　０７７１－２２－０６３１　　FAX　０７７１－２２－０７９７								
学　　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特別支援	合　計	教職員数
学　級　数	1	1	1	1	1	1	2	8	16 ※校長・教頭を含む
児　童　数	11	12	15	9	12	18	10	87	
連　携　先 （文化財所有者等）	国指定重要無形民俗文化財「佐伯灯籠人形浄瑠璃」								

２　研究校の概要

本校ではすべての教育活動の基盤に「人権教育」を据え、日々様々な取組を行っている。きめ細やかな児童の実態把握に努め、教育の機会均等の精神に則り、基礎学力の充実と希望進路の実現を目指している。さらに、互いの個性や価値観の違いを認め、自己はもちろん、他者を尊重する態度や実践力を育成する人権教育は、学び合う学級集団の質を高め、学力向上に不可欠なものと捉え、人権教育の推進を図っている。

基礎学力の充実については、「学力向上プログラム」のもと、「授業改善」「個に応じた指導」を全校体制で進め、全教職員が共通理解のもと、組織として学力向上に取り組んでいる。また、「成長的マインドセット」や「レジリエンス」といった非認知能力の育成にも重点を置き、最後まで粘り強く課題に取り組む力を付けさせる取組を進めている。

本校は地域とのつながりが深く、地域の教材や地域の人から学ぶ学習を行っている。その中の一つに地域の伝統文化である国指定重要無形民俗文化財「佐伯灯籠人形浄瑠璃」の体験学習がある。これまで希望者のみが体験していたものをたくさんの児童が地域の伝統文化に触れる機会が持てるようカリキュラムを整理した。これにより４年生の全ての児童が「総合的な学習の時間」で体験学習をしている。また「絆の作り手育成プログラム」の指定を受け、５年生では４年生で自らがした伝統芸能の体験に基づき、地域の伝統文化財をどのように継承するかについてＰＢＬの手法を活かし学習を進めている。さらに、６年生では、国語科における音読を重視した研究を発展させ「狂言」に取り組み、地域の行事や学習発表会において成果を発表した。　（※全校、保護者、祖父母、地域の皆様に発表することが本校の伝統となっている。）これらの学習は、我が国の伝統文化への理解を深めるだけでなく、児童の表現力を高めることや、地域の人から学び地域とつながる学習として大きな成果を得ている。



３　主な研究活動

【対象文化財】国指定重要無形民俗文化財　『佐伯灯籠　人形浄瑠璃』

【対象学年】５年生

【付けたい力】

①　多角的な視点からアイデアを発想する力

②　実現可能性をシミュレーションする力

③　情報収集する力、情報を扱う力

【テーマ】どうしたらこれからも人形浄瑠璃を存続し続けられるだろうか？

【単元計画】

主な流れ	時数	活動内容	時期	講師	
情報収集	1	テーマの情報収集を行い、どんな問題が起きているかを知る。 →課題のありそうな文化財をリスト化し、情報収集作業が円滑に進むようにする。	8・9 月		
	1	文化財保有団体の活動を知り、自分たちにできることの確認をする。	9/2		
	1	技芸員さんの話を聞く。 →児童の問い：文化財をどうしていきたいのですか？ 技芸員の返答：今後、こんなふうにしていきたい。を指導者が仕組む。	9/7	技	
課題分析	1	だれが、どのように困っているかを整理する。	9/14		
	1	先行事例について。何が解決され、何が課題として残るのか。自分たちが考えるポイントを明確にする。	9/21		
仮説構築	1	解決のためのアイデアを集める。 →まずは、ブレーンストーミングなど、制約なしで様々な角度からアイデアを出す。	10/5		
	3	アイデアの整理をする。	10/12		
			10/19		
			10/20		
	3	技芸員さんからのアドバイスをもとに、アイデアを整理する。	10/31		
			11/2		
			11/9		
検証	1	技芸員さんに整理したアイデアを見てもらい、意見を頂く。	10/25	技	
	5	実現に向けた可能性を検討する。 →誰が、何を、どのような順番で行うのかを考える。実現困難なポイントが見えてくるので、対策案も検討する。	11/16		コ
			11/17		
			11/21		
			11/30		コ 本
			12/7		
アウトプット	2	６年生と技芸員さんに企画を発表し、意見をもらう。（中間発表）	12/14	技	
	＋α	広げたアイデアをより効果的に解決できるプランに絞り込む。企画のまとめをする。	2/14		
	2	最終のストーリーを作り、効果的な方法で課題解決の企画を発表する。参観日で保護者に向けてプレゼンテーションをおこなう。	2/14	技	

【講師について】

技…佐伯灯籠人形浄瑠璃保存会技芸員との連携

本…本庁指導主事の参観及び助言　　コ…コーディネーターの参観及び助言

【活動の様子】

情報収集

人形浄瑠璃について想起（昨年度、人形浄瑠璃を体験している）した。半数以上が浄瑠璃に対してマイナスイメージをもっていたが、児童の率直な意見や感想を大切にし、困った時やアイデアを練る時に参考意見として立ち返る原点となった。

技芸員の方のお話を聞き、文化財をどうしていきたいか、どのような気持ちで始めたか等率直な質問に対し、答えていただいた。

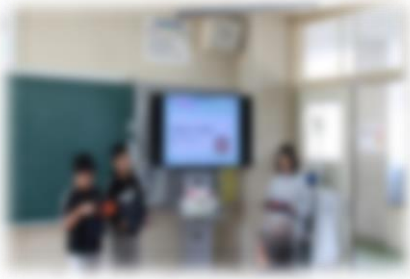
課題分析

技芸員の方のお話から、誰がどのように困っているか整理した。様々な問題がある中、「人手不足（高齢化も含む）」が深刻であると捉え、「人（技芸員）を増やすにはどうしたらよいか」「人形浄瑠璃をどのように広げるか」という大きなテーマを設定した。

仮説構築

「ブレーンストーミングでアイデアを出す」→「出たアイデアに優先順位をつけて一つに絞る。」→「『目的』『ターゲット』を決め、その理由を明確にする」

同じ意見の児童でグループを作り、上記のような流れで仮説を立てた。



検証

グループでアイデアを出し、より具体化を図った。まとめた考えを自分たちで確かめ合うだけでなく、保存会（技芸員）の方にもご意見をいただいた。コーディネーターの方にも「目的」「誰に」「価値はどこにあるのか」「実現可能か」「実際にやってみてはどうか」など、大切な助言をいただいた。いただいたアドバイスをもとに考えを練り直し、再び発表することを繰り返した。こうしたトライ＆エラーを繰り返す中で、その都度目的を再確認し、学習意欲が低下しないよう努めた。

アウトプット

友だち同士で、技芸員の方に、コーディネーターの方に、保護者にと、たくさんの方に向けてアウトプットする機会を設けた。そして、そこから得たアドバイスを吟味し、改善へとつなげることができた。

児童の熱意が伝わり、保存会として配る予定のチラシの原案の作成を依頼されたり、３月に校内体験会（企画運営：児童、協力：技芸員）を実施したりすることで、自分たちの学習が実を結んだと実感でき、達成感と自信を得ることにつながった。

←児童が考えたチラシの原案

冬休みの自由課題としたところ、ほとんどの児童が作成した。

４　今年度の研究の成果と検証

【学習意欲の向上・学力向上について】

・トライ＆エラーを繰り返すことでアイデアがより具現化され、学びが深まった。学習の軸がぶれないように、その都度目的や方針の共通確認を行い、意欲を持続させながら学習を進めることができた。

・プレゼンの際に、国語科や社会科の学習で学んだこと経験したことを生かして、より伝わるよう、説得力が増すよう工夫する姿が見られ、教科横断的な学びが見られた。

【児童が学びの主体者となる授業】

・技芸員やコーディネーターから多面的・多角的な視点を与えられることで、思考が深まった。また、考えたことを伝える際、説得力をもたせるために、主体的に知識を蓄えたり、表現を工夫したりする姿が見られた。

【多様な他者とつながる力】

・より効果のある取組を目指す中で、互いのチームの良さを合わせる方がよいと結論づけ、協働的な学びが実現できた。

【コミュニケーション能力の向上・自尊心の高まり】

・学習したことをアウトプットする場、実現させる場を設けることで、学習への達成感と自信を得ることができた。

【児童、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等】

・児童が、自ら課題を見付け解決に向けて調べたり考えたり協議したりすることの楽しさを感じることができ、他の学習や特別活動などでも主体的に考え行動する姿が見られた。

・児童の熱意が地域の方々にも伝わり、積極的に好意的にご協力いただけた。最後の体験会も何とか力になってあげたいと、たくさんの方々にご協力いただいた。

・保護者も児童の学習を参観することで、地域に伝わる伝統文化を知り関心をもってもらえた。

・教職員も、児童が主体的に学ぶために「ファシリテート」の意識をもつようになった。

５　今年度の課題

３年間の研究を経て、学力向上に向け、課題解決型の学習が有する可能性を大いに感じている。よって、以下の２点を課題に挙げ、持続可能な取組として今後も本校の学習に位置づけていきたい。

・課題解決型の学習については、まだまだ実践が未熟である。職員研修等でスキルアップを図り、総合的な学習の時間を中心に実施していきたい。また、総合的な学習の時間以外の教科学習でも課題解決型の学習の手法を取り入れながら、探究的な学習を実践していきたい。

・本校は単級であり、担任一人の力では進めることは困難である。実践の足跡を残したり、複数の教員で教材研究をしたり、人材バンクの効果的な活用のノウハウを学んだりしながら、次年度以降も継続していきたい。

６　研究成果の活用について

・職員の中で再度成果を共有し、『総合的な学習の時間』で課題解決型の学習の手法を用いた学習計画について検討を重ねていく。

・総合的な学習の時間以外の教科学習でも課題解決型の学習の手法を取り入れられるか授業改善研究の一環で検討していきたい。